

【報道関係各位】

2022年3月10日
一般財団法人 日本気象協会

2022年桜開花予想（第5回）

春本番の暖かさで開花近づく トップは熊本と宇和島で20日

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：長田 太、以下「日本気象協会」）は、日本全国89地点の桜〔ソメイヨシノ ほか〕の開花予想（第5回）を、2022年3月10日（木）に発表します。

開花予想前線図



開花予想日(主な地点)

	地点	開花予想日	開花予想傾向	平年開花日	昨年(2021年)開花日
鹿児島県	鹿児島市	3月26日	平年並	3月26日	3月17日
福岡県	福岡市	3月22日	平年並	3月22日	3月12日
高知県	高知市	3月21日	平年並	3月22日	3月15日
広島県	広島市	3月25日	平年並	3月25日	3月11日
大阪府	大阪市	3月26日	平年並	3月27日	3月19日
愛知県	名古屋市	3月23日	平年並	3月24日	3月17日
東京都	千代田区	3月23日	平年並	3月24日	3月14日
長野県	長野市	4月9日	平年並	4月11日	3月29日
新潟県	新潟市	4月6日	平年並	4月8日	3月29日
石川県	金沢市	4月1日	平年並	4月3日	3月23日
宮城県	仙台市	4月5日	早い	4月8日	3月28日
秋田県	秋田市	4月14日	早い	4月17日	4月4日
青森県	青森市	4月19日	早い	4月22日	4月13日
北海道	札幌市	4月26日	早い	5月1日	4月22日
北海道	釧路市※	5月8日	かなり早い	5月16日	5月8日

※エゾヤマザクラ



満開予想日(主な地点)

	地点	満開予想日	満開予想傾向	平年満開日	昨年(2021年)満開日
鹿児島県	鹿児島市	4月4日	平年並	4月5日	3月30日
福岡県	福岡市	3月31日	平年並	3月31日	3月22日
高知県	高知市	3月29日	平年並	3月30日	3月23日
広島県	広島市	3月31日	早い	4月3日	3月25日
大阪府	大阪市	4月2日	平年並	4月4日	3月28日
愛知県	名古屋市	3月30日	早い	4月2日	3月28日
東京都	千代田区	3月29日	平年並	3月31日	3月22日
長野県	長野市	4月13日	早い	4月16日	4月1日
新潟県	新潟市	4月11日	平年並	4月13日	3月31日
石川県	金沢市	4月6日	平年並	4月8日	3月29日
宮城県	仙台市	4月8日	早い	4月13日	3月31日
秋田県	秋田市	4月19日	早い	4月22日	4月7日
青森県	青森市	4月22日	早い	4月26日	4月17日
北海道	札幌市	4月29日	かなり早い	5月6日	4月27日
北海道	釧路市※	5月10日	かなり早い	5月19日	5月11日

※エゾヤマザクラ

開花と満開の傾向

桜の開花は、九州から近畿で平年並みでしょう。東海から東北でもおおむね平年並みですが、平年より早く開花するところもある見込みです。北海道ではかなり早い開花となるところがあるでしょう。なお、全国で記録的に早い開花となった2021年と比べると、九州から東北では1週間から10日前後遅くなる見込みです。

今年の開花は3月20日に熊本と愛媛・宇和島市からスタートするでしょう。21日には高知、22日には福岡や静岡で開花し、東京は23日に開花する見込みです。3月末までには西日本から関東の広い範囲で開花となるでしょう。北陸や長野、東北では4月上旬から中旬に開花するところが多くなりそうです。桜前線は4月下旬に津軽海峡を渡り、4月25日に函館、26日に札幌で開花する見込みです。

満開日は、九州から関東甲信ではおおむね平年並みで、3月下旬には九州から関東のところで満開となるでしょう。東京では3月29日に満開となる見込みです。北陸や東北では平年より早い満開となるところが多いでしょう。北海道では平年より10日前後早く、4月下旬から5月上旬に満開となり、ゴールデンウィークはお花見が楽しめそうです。

この冬(12月～2月)は、たびたび強い寒気が流れ込みました。全国的に厳しい寒さの日も多く、桜の花芽の休眠打破※は順調に行われたとみられます。厳しい寒さもようやく終わりを迎え、3月に入ってから気温の高い日が見られるようになっていきます。3月5日には関東と東海地方で「春一番」が吹き、春の訪れが早かった去年に比べると関東では約1ヶ月遅い「春一番」となりました。「春一番」をもたらした低気圧の通過後、寒の戻りとなっていますが、週末は全国的に気温が高い予報となり、本格的な春の暖かさが近づいてくるでしょう。

※休眠打破:前年の夏に形成され休眠に入った花芽が、冬になり一定期間の低温にさらされて目覚めること

全89地点の桜の開花予想日は、日本気象協会が運営する天気予報専門メディア『tenki.jp(てんきじえーピー)』桜の開花予想ページ(<https://tenki.jp/sakura/expectation/>)にて公開しています。



【言葉の説明】

平年:1991～2020年の平均値

かなり早い	: 平年よりも7日以上早い
早い	: 平年よりも3日から6日早い
平年並	: 平年との差が2日以内
遅い	: 平年よりも3日から6日遅い
かなり遅い	: 平年よりも7日以上遅い

以 上



参考資料

桜開花予想に関するよくあるご質問

Q1: 桜開花予想の発表のスケジュールは？

A1: 以下の日程を予定しています。1月、2月中は開花予想日のみを発表し、3月以降は開花予想日と満開予想日を発表します。

第1回 1月27日(木)	第2回 2月10日(木)	第3回 2月24日(木)	第4回 3月3日(木)
第5回 3月10日(木)	第6回 3月17日(木)	第7回 3月24日(木)	第8回 3月31日(木)
第9回 4月14日(木)	第10回 4月28日(木)		

Q2: 開花日・満開日の基準は？

A2: 気象庁の観測基準と同じです。開花日は標本木で5～6輪以上の花が咲いた状態となった最初の日、満開日は標本木で80%以上のつぼみが開いた状態となった最初の日です。

Q3: 予想する地点数は？

A3: 1月、2月中は49地点、3月以降は全国で89地点の予想を発表します。予想地点89地点は、各地気象台が観測する標本木53地点と自治体・公園などの協力機関から観測データを得られる36地点となります。

Q4: 日本気象協会の桜開花予想の手法・特徴は？

A4: 花芽(はなめ)の生育過程に大きな影響を与える「秋以降の気温経過」に重点を置いた、独自の予測式を用いて開花予想を行っています。各地気象台の標本木や公園などの協力機関による正確な観測データを重視した、気象学的根拠に基づいた予想を出しているのが特徴です。

日本気象協会は2007年から桜の開花予想を実施しており、今年で16年目の取り組みです。

Q5: 開花予想に使うデータは？

A5: 以下データを使用しています。

- ① 前年秋から予想作業日前までの気温観測値
- ② 予想作業日から開花時期までの気温予測値(日本気象協会ポイント予報および長期予報)

桜の開花時期には、前年の秋から春にかけての気温が大きく影響します。桜の花芽は前年の夏に形成され、その後、休眠に入ります。冬になって一定期間の低温にさらされると、花芽は休眠から覚めます(休眠打破)。休眠から覚めた後は、気温の上昇とともに生長し開花しますが、気温が高いほど花芽の生長が早く進み、開花が早まると考えられています。